
2人のお願い

林 a

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2人のお願

【Nコード】

N3602H

【作者名】

林 a

【あらすじ】

告白したら、今の関係が壊れちゃう…。幼馴染の駿に恋をしてる架奈。だけど駿はモテていて、好きな子もいる。

(前書き)

今日は七夕なので、合わせて書いてみました。
読んで頂けたら嬉しいです。

私は中3の普通の女の子。

本当に普通すぎだけど…子供っぽい。

お化けとか、魔法使いとか、いると思う。

それだけじゃない。

つい去年まで、サンタを信じてた。

そんな子供っぽい私が、おまじないとかも、信じないわけがなく…。

「問題ー、明日はなんの日でしょーか？」

「……さあ？」

「知らないー」

「誕生日なの？」

……違う！違うよ！

自分の誕生日よりも大事だよー！

みんなは気づいてくれない。

だから、男子は余計に気づくはずない…と思ってた。

「知ってる、七夕だろ？」

「なんで分かったのー!？」

「架奈^{かな}は、そーゆの好きだろ。」

分かったてくれたっ！

呆れた顔をしながらも、ちゃんと答えてくれる。

いつも私の近くにいてくれる…駿^{しゅん}。

駿とは幼馴染み。

家が隣だった事もあり、親同士も仲がいい。

幼馴染：私はいつからか、駿を幼馴染とは思えなくなった。

急にカツコよくなつて、結構モテる駿。

そんな駿への恋が叶うはずもなく。

「駿は何をお願いするの？」

「うーん……今年こそー……」

言いかけて、私を見る駿。

こっちはドキツとするのに。

駿は私を幼馴染としか思っていない。

「ん？」

「アイツを…振り向かせたい。」

…え？アイツって…誰？

駿に…好きな子がいる…？

「アイツ…？」

「一緒にいても、気づいてくれねえんだけど。」

「クラスの子？」

聞きたい…聞きたくない…どうしよう…。

「…え…あ…ああ。」

ズキン…。どうしよう…泣きそう…。

やっぱり、幼馴染の私は対象外なんだ…。

よく考えると、駿はクラスで、いつも女の子に囲まれていた。

私はそこに、なんとなく入りずらかった。

だって、いっつも「幼馴染」とみんなに言ってたから。

「架奈？」

「……………」

「…な、泣いてんのか？」

頬を伝う生温い水。止めてたはずの涙は、溢れていた。

「だ…って…駿が…」

「架奈…」

「駿…に…彼女ができたなら…私、駿と…いれなく…なっちゃっ…」

どうして、駿が好きって素直に言えないの？

どうして私って、こんなに可愛くないんだろ…？

「分かったよ…」

「…え？」

さっきまで下を向いていた駿は、顔を上げた。

そして、今までにない顔をした。

「架奈が…嫌なら…オレは彼女なんか作らない…。」
とても辛そうな顔だった…。

私は駿から好きな子を…奪うの？

私なんかの気持ちで、駿を縛っていいの？

私だけいい思いして、駿の気持ちは無視するの？

「でも…好きな子は…」

「…いいんだ…オレは架奈の傍にいるから。」

「駿…」

本当にいいの？駿はその子の傍にいらなくて平気？

平気なわけないよね…私も駿がいないと駄目だもん。

そして、七夕になった。

私と駿は、夜に星が見える所まで行く約束をした。

そこで願えば叶うだろ、って駿が言ってくれたから。

ワクワクしすぎて、学校ですつとにやけていた。

そして私のお願い事は…。

駿が好きな子と結ばれますように…。

それでいい…私は駿を縛りたくない。

幼馴染だからって、いつまでも甘えてたら駄目…。

だから私は告白して振られよう…。

駿の好きな子って…誰かな…。

クラスの子って事は、一番美人な鈴すずかな？

それとも一番可愛い子？頭いい子かな？

なんて考えてたら、学校が終わった。

すぐ家に帰り、自分の部屋に行き、身支度をする。

「どの服にしよっかな…??？」

駿を好きって思うまでは、2人で遊ぶ時も悩む事はなかった。

いつも適当でズボンとか…今考えるとちよつと後悔。

「うっ…ん…」

スカートを並べてみるが、どれもイマイチ。

とりあえず、自分に合ってそうなのを選んだ。

こうして夜になり、駿と約束した時間が来た。家が隣だから、家の前で待ち合わせが出来る。便利だな〜とか思いつつ、ちよつと遅れて出た。

「駿お待たせー、遅れてごめんねー」

「……あ……全然いいぜ。」

星が見える場所は、学校より遠い場所にあった。本当は近くでいいかと思って思った。

でも駿は、人がいなくてよく見える場所を知ってたらしい。結構な距離を、自転車に私を乗せてってくれた。

着いた頃にはもう真つ暗だった。

「うわーっ、こんな場所があつたんだねー」

「オレ専用の場所だからな。」

「え、私……知つちやつたよ?」

「架奈なら別にいいよ。」

そう笑つて言うは、卑怯だ。

そんな笑顔で私を誤魔化そうたつて、そうはいかないもん。実際、好きになつちやつたけど……。

「ありがとうー、星がキレイだね!」

「……そーだな。」

「ねえねえ駿……私ね……」

どうしよう……もう告白していいのかな?

でも振られちゃう……幼馴染じゃなくなっちゃう……。

せめて、この関係のまま……いたい。

「ん?」

「私の願ひ事は……駿が好きな子と結ばれますように……。」

「……架奈……」

「私なら大丈夫だよっ、だから好きな子にちゃんと言いなよ?」

精一杯の笑顔だった。

本当は嫌だよ…でもね、駿ならきつと叶うよ。

私の本当の願いは叶わないけど…駿はモテるから、きつと叶う。そして、手を合わせた。

「叶うと思う？」

「え？」

「架奈とオレの願い事…。」

「駿はモテるから、その子も、きつと駿を好きだよっ！」

どんな子が好きなのかな…？

私と正反対で大人っぽいとか？

「今から、試してみても…いいか？」

「…え？その子と…メールしてるの？」

駿は小さく首を横に振った。

そして駿は夜空を見上げ目を瞑り、手を合わせた。

それから、私にハッキリ聞えるような、大きい声で言った。

「オレは……架奈を振り向かせたいです。」

「…え？」

目を大きくする自分。

「オレは、架奈と結ばれます。」

「…駿…」

暗くても、駿の顔が赤い事が分かった。

自分の顔も火照っている。

駿は私の方を向き、真剣な顔で言った。

「これが、オレの願い事。」

そしてそのまま続ける。

「もし叶わなくても、幼馴染のままであるように。

つてか、幼馴染の枠から出たいです。」

「駿の好きな子って…。」

これって夢かな？

だって、私は子供っぽいよ。駿はモテるんだよ。

私は今日…振られに来たんだよ？

「うん、そうだ…架奈だよ…オレは架奈が好きだ。」

「…ウソ…」

「嘘なわけねえだろ…ってか架奈の願い事…」

私は駿が好きな子と結ばれますように…。

叶ってる…私も駿も…2人の願いが。

「駿よかったね。」

「え？」

「2人との願いが叶っちゃったね！すごいね！」

「ってことは…架奈…」

信じれば、いつかは叶う。

「私も駿が好き。」

「嘘だろ…」

私は子供っぽい。

だからお化けとか、魔法使いとか、いると思う。

それだけじゃない。

つい去年まで、サンタを信じてた。

だから、七夕だって願えば叶うって信じてた。

子供っぽいのは嫌だけど、直らないし、どうしても信じちゃう。

でも信じてよかったって思う。

だって

「来年も、ここに来ようね！」

「当たり前だろ。」

「私が願い事とか、信じなくなってもだよ？」

「それは無いだろ。」

こんなに幸せなんだから。

私と駿は、手を握った。

そのまま芝生に寝転がって、夜空を見上げた。

「バカにしないでよ、絶対大人になってやるんだからっ」

「もう充分なってるって。」

「嘘だーっ」

「本当だって。」

そして駿の唇が、私の唇と重なる。

「…手が早い…。」

「それくらい魅力があるんだって。」

その笑顔に乾杯！！…やっぱバカにされてない？

まあいつか。

私は途中からだけど、駿はずっと好きだったって。

なんだかいい気分…。

こうして私達は、そのまま夜遅くまでいた。

焦って帰ったら…2人と母親が家の前で待機してて。

2人一緒に怒られました。

(後書き)

どうでしたか？

急な思いつきで書いたので続編はありませんが…。

実際私には幼馴染の男子はいないんです。

だから、気持ちとか全然分かりませんでした。

所々、気に食わない箇所があるかと…。

ですが読んで頂けたなら感謝、感謝です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3602h/>

2人のお願い

2010年10月11日19時08分発行